

広島市立庚午（こうご）中学校の取組み ～教職員対象応急手当研修会～



校門前の松の緑も鮮やかな、

庚午中学校校舎

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」という。）では、学校の管理下での、事故防止の取組に活用できる教材や資料を、災害共済給付Web等で提供しています。

令和7年4月4日、広島市立庚午中学校（以下「庚午中学校」）において、応急手当に関する教職員研修が行われました。その際に学校からの依頼で、『スポーツ事故防止・対応ハンドブック（以下「ハンドブック」）』を提供しました。

これら事故防止資料の、学校における研修会の様子についてご紹介します。

【機能する校内体制を目指して】

庚午中学校では2018年から、日本赤十字社広島県支部の脇谷孔一指導員を講師に迎え、実技研修を行っています。また、2022年からは、学校の管理下で起こった事故事例をもとにした、シミュレーション研修に取り組んでいます。

庚午中学校の取組みの歩み	
2018年8月27日	教職員が学んでおきたい救急蘇生法について
2019年7月29日	学校教職員に必要なファーストエイド ～新たな展開とポイント～
2020年8月19日	学校での重大事故対応、1次救命処置の確認、熱中症予防と手当
生徒が倒れた時、個人の対応と組織の対応を理解し習得する ＜シミュレーション研修＞いずれも2回	
2022年1月6日	教室での心肺停止事例
2022年4月25日	食物アレルギー事例、エピペン対応
2023年4月24日	階段から転落事故事例
2024年4月5日	（学校給食開始） 食物アレルギー事例、エピペン対応
2025年4月4日	体育の授業中の心肺停止事例

2025年は、学校での緊急時に、全ての教職員が迅速に的確な判断をし、心肺蘇生及びAED装着など、適切な応急処置や対応の実技を実践できるようにすることを目的とし、研修を行いました。

【緊急時の対応は「チーム学校」】

前半は、心肺蘇生の実技講習です。傷病者の発見から、早期認識と通報、心肺蘇生までの流れを一人一人が人形を使って、繰り返し実践しました。

質疑では、大出血をしている場合、転落や落下で頸椎に損傷が疑われる場合など、教職員からいくつか質問がありました。脇谷指導員が、様々な事例をもとに説明を織り交ぜながら、具体的な動作を示されました。



実技講習の風景

教職員が一人に一体の人形を使って

心肺蘇生の実技講習

後半は、シミュレーション研修が行われました。

庚午中学校シミュレーション研修

<事例設定>

体育の授業中、体育館でバスケットボールの試合をしていたところ、離れたところで見学をしていた生徒が突然倒れた。

<シミュレーションでの役割>

① 現場の教員 ②教頭 ③教職員（3人程度） ④生徒

倒れた生徒（訓練人形リトルアン）

※校長と養護教諭は、出張のため不在

<シミュレーションの展開>

開始時点：現場には①④と倒れた生徒、担任が発見し訓練スタート

職員室に②③が待機、保健室にAED

1回目 説明、配置：2分間 展開：3分間

振り返り：10分間 質疑：5分間

2回目 役割を一部変更し実施する。

アクションカードを使用する。

4グループに分かれ、それぞれ役割分担を決め、所定位置に配置後、1回目のシミュレ

ーション研修がスタートしました。



1回目のシミュレーション研
修の様子

1回目の研修終了後の振り返りでは、それぞれのグループから、連絡や記録、生徒の誘導等について「難しかった」「うまくできなかった」などの感想に対し、統括者、現場リーダー、記録者、メッセンジャー、それぞれの役割の具体的な動きについて指導助言がありました。

アクションカードを使用した、2回目の研修では、対応の流れを確認しながら、グループ内で声掛けやフォローをするなど、自分がいま何をすべきか自身で判断し、同時に組織として意識して動いている様子が見られました。



2回目のシミュレーション研
修の様子
アクションカードで確認をし
ながら対応に当たる

シミュレーション研修の締めくくりとして、「緊急時には、教職員、生徒、保護者がチーム学校として、みんなで命を守りましょう。」との提言がありました。



配布を待つハンドブック



ハンドブックの活用方法について説明する脇谷指導員

2回目のシミュレーション研修後、脇谷指導員からハンドブックの活用方法について、「このハンドブックには様々な事故防止や対応が出てきます。本日の心肺蘇生の流れも含め、それぞれの傷病に対する事故防止、対応の内容をしっかりと確認し、その内容を生徒へ伝える安全指導に活用してください。机の引き出しにしまいっぱなしにしないで、常に手の届く所に置いて、何かあればすぐに開いてください。」との説明がありました。

また、脇谷指導員には2019年7月の研修の際に、資料として配布した熱中症の教材カードやハンドブックを用いて、フローチャートに沿った事故発生時の対応を紹介していただきました。



2019年研修資料の
教材カード、ハンドブック

【研修を終えて、参加者にお聞きしました】

研修終了後に、参加した教職員の方々にお話を伺いました。

○初めて研修を受けた新規採用教諭4名、いずれも高等学校、大学において心肺蘇生の研修経験あり。

- ・現場リーダーは自信がないが、組織内で指示に従って動くことはできそうです。
- ・自分のグループの被災生徒の命は守れたかの問いに対し、呼吸心拍のある状態で病院搬送はできたと思います。
- ・研修の中で印象に残ったことは、大出血の場合は、胸骨圧迫より止血が優先ということを知ったので学びになりました。
- ・シミュレーションでは生徒役をやりました。先生が付いていなかったのも、被災生徒が心配で様子を見に行きたいと思いました。
- ・先生役をやりました。記録係は大変そうだと感じました。現場リーダー、通報者が状況を声に出してくれるのはとても分かりやすかったです。
- ・事故防止・対応ハンドブックの内容を確認し、対応できるようにします。

○6年目の体育教諭

- ・研修を重ねることで、実際の事故発生時に教職員それぞれが、自分が何をすべきか迅速に判断し、動くことができるようになったと感じます。
- ・ハンドブックは常に携帯し、生徒にも声掛けするようにしています。特に熱中症の防止、対応について、非常に参考になります。
- ・シミュレーションでは生徒役をやったのですが、一次救命ができるか不安に思いながら見ていました。

○養護教諭

- ・継続的に研修を行うにあたっての大きなテーマ、目標をお聞かせください。
⇒テーマは「機能する校内体制」です。事故発生時の役割分担を明確にし、それぞれの役割を実施することで、実際の場面で迅速に対応できる体制を目指しています。
- ・研修を行うことの効果、校内の意識の変化について教えてください。
⇒シミュレーション研修を継続することで、実際の事故発生時には、先生方がそれぞれの役割を認識して、生徒の安全と命を守るよう対処しています。緊急時におけるチームとしての対応力が向上しています。また、さまざまな事例を知ることで、事故予防の意識が高まったと感じています。
- ・ハンドブックや事故防止資料の活用事例や感想をお聞かせください。
⇒いつもわかりやすい資料を提供いただきありがとうございます。研修内でハンドブックの活用方法を説明いただいたので、緊急時の備えだけでなく生徒への安全指導など事故防止につなげたいと考えます。

○校長

学校は子どもたちの健やかな成長と自己実現を目指して学習活動を行うところであり、その基盤として安全・安心な環境が確保されている必要があります。

そのため、本校においては、常日頃から「事前の危機管理（未然防止の対応）」「緊急事態発生時の危機管理」「事後の危機管理」のプロセスに沿った学校の危機管理に継続的に取り組んでいるところです。

この度の応急手当に関する教職員研修では、事件や事故、災害など不測の事態が発生した際に、「チーム学校として適切かつ迅速に対処し、生徒（教職員）の生命や身体の安全を守るとともに、被害を最小限度にとどめること」を教職員一人一人が意識して受講しました。

本校においては、これからも「スポーツ事故防止ハンドブック（解説編・フローチャート編）」を活用した研修を行うとともに、脇谷指導員さんをはじめ、多くの専門家の方から御指導をいただき、校内において継続して実践的な研修を行い、全教職員が協働して危機に立ち向かえる学校組織となるよう、今後とも取組を進めていきたいと考えます。

【終わりに】

今回の研修では、学校の管理下の事故事例をもとに、シミュレーション研修が行われました。緊急時に、教職員が今何をすべきか判断して動く、それを組織としての対応につなげていくには、まさに「個人の対応と組織の対応を理解し習得する」繰り返しのシミュレーション研修がとても重要であり、有効だと感じました。

また、今回の研修で講師を務められた脇谷指導員には、毎年、広島県内の保育園を対象として地域ごとに開催している、幼児安全法短期講習において、ＪＳＣの保育中の事故防止に関する資料や、保育者向けの熱中症の教材カードを配布、使用していただいています。様々な場面で、折に触れ、ハンドブック等のＪＳＣの事故防止資料の紹介や活用をしていただいています。



ＪＳＣでは、学校等の管理下の事故防止について、説明会や研修会で情報や資料等を提供しています。研修の形態、内容、必要な資料については、お気軽にご相談ください。

中国四国地域のお問い合わせは

広島業務推進課（０８２－５１１－２８２２）まで

幼稚園・保育所等の事故防止パンフレット

「なくそう！保育中の事故」

【参考】

- ・ [スポーツ事故防止ハンドブック（解説編）](#)
- ・ [スポーツ事故対応ハンドブック（フローチャート編）](#)
- ・ [幼稚園・保育所等の事故防止パンフレット　なくそう！保育中の事故](#)
- ・ [教材カード](#)

【問い合わせ】日本スポーツ振興センター災害共済給付事業部広島支所

TEL：082-511-2822 E-mail：saigaikyosai-hiroshima@jpnssport.go.jp